

第1編 サミット概要

第1章 G7サミットの概要

(1) G7サミットとは

G7サミットとは、日本、米国、英国、フランス、ドイツ、イタリア、カナダの7か国の首脳並びに欧州理事会議長及び欧州委員会委員長が参加して開催される首脳会議である。ウクライナ情勢を受けたロシアのG8への参加停止により、2014年以降G7サミットとなっている。

G7サミットでは、国際社会が直面する様々な課題について、首脳は一つのテーブルを囲みながら、非公式かつ自由闊達な意見交換を通じてコンセンサスを形成する。そして、その成果が宣言としてまとめられる。グローバル化が進むと世界各国の相互依存関係が進み、物事が起こりかつ展開する速度が速くなり、その影響するところも国境を越えて大きくなるが、それらに有効に対処するためには、柔軟で果断かつバランスのとれた決断、効果的な措置が必要となる。G7サミットには他の多くの国際的なフォーラムと異なり事務局はないが、それぞれの国で総合的・横断的に様々な分野を総覧する立場にある首脳がトップダウンで物事を決めるため、適切な決断と措置を迅速に行うことが可能になる。

G7サミットを開催する国が、開催する年の1月～12月の1年間、G7議長国となる。G7議長国は、サミット開催に向けた事前の準備会合や、実際の首脳会合や外相会合をはじめとした閣僚会合の開催のための諸準備及び議事進行を行う。

これまで日本は1979年、1986年、1993年、2000年、2008年の5回、議長国となっている。そして2016年三重県伊勢志摩にて、6回目の議長国としてG7サミットを開催した。

(2) サミット開催の経緯

1970年代に入り、ニクソン・ショック(ドルの切り下げ)や第1次石油危機などの諸問題に直面した先進国の間では、世界経済問題(マクロ経済、通貨、貿易、エネルギーなど)に対する政策協調について首脳レベルで総合的に議論する場が必要であるとの認識が生まれた。

このような背景の下、ジスカール・デスタン仏大統領(当時)の提案により、1975年11月、パリ郊外のランブイエ城において、日本、米国、英国、フランス、西ドイツ、イタリアの6か国による第1回首脳会議が開催された。

1975年のランブイエ首脳会議の結果、世界経済問題に対応するために先進国の首脳が集まって政策協調のための議論の場を持つことの重要性が認識され、各国が持ち回りで議長国を務めつつ毎年首脳が集まって会合をもつことになった。

その後、世界経済の諸問題と並んで、冷戦を背景とした東西問題、更には冷戦崩壊後の国際問題、南北問題やその時々の世界情勢などの政治問題が議論の対象とされるようになり、さらには気候変動、エネルギー、貿易、開発などの地球規模の問題についても議論されるようになっていく。このようにして、主要国の政策協調の場であるサミットの重要性はますます高まっている。

また、討議内容の広がり等を踏まえ、2000年の九州・沖縄サミット以来、G7以外の国々(アウトリーチ国)との対話も行われるようになっていく。

第2章 伊勢志摩サミットの概要

1 日程

伊勢志摩サミットは、平成28年5月26日（木）、27日（金）の2日間で開催された。

伊勢志摩サミット関連日程の一覧は、下記のとおりである。

日程		首脳プログラム	配偶者プログラム	二国間会談等	県及び県民会議等が 関与した行事
5/24 (火)	午前				
	午後				
	夜			日加首脳会談	
5/25 (水)	午前				
	午後				
	夜			日英首脳会談 日米首脳会談 日米共同記者会見	G7首脳のホテルでの出迎え(石垣副知事、大口志摩市長が出迎え) 【於：志摩観光ホテル】
5/26 (木)	午前	総理によるG7首脳出迎え 【於：伊勢神宮】 伊勢神宮訪問、記念植樹	伊勢神宮訪問		G7首脳のホテルでの出迎え(石垣副知事、大口志摩市長が出迎え) 【於：志摩観光ホテル】 G7首脳の伊勢神宮での出迎え(鈴木知事、鈴木伊勢市長が出迎え) G7首脳による記念植樹(鈴木知事が参加) 【於：伊勢神宮】
	昼	セッション1(G7の価値・結束、世界経済)：ワーキング・ランチ 【於：志摩観光ホテル】	総理夫人主催昼食会 【於：杉風荘】		《世界との絆づくり》 英国同行プレスによる皇學館大学生との交流 【於：皇學館大学】 《配偶者プログラム》 総理夫人主催昼食会(鈴木知事が出迎え) 【於：杉風荘】
	午後	サイドイベント(自動走行車・燃料電池自動車のプレゼンテーション) 【於：志摩観光ホテル】 G7首脳記念撮影 【於：志摩観光ホテル】 セッション2(貿易)・3(政治・外交) 【於：志摩観光ホテル】	ミキモト真珠島訪問 記念植樹 【於：志摩観光ホテル】		《配偶者プログラム》 ミキモト真珠島訪問(鈴木知事が参加) 記念植樹(鈴木知事が参加) 【於：志摩観光ホテル】

日程		首脳プログラム	配偶者プログラム	二国間会談等	県及び県民会議等が 関与した行事
	夜	総理夫妻主催カクテル 【於：志摩観光ホテル】 サイドイベント(テロと文化財) 【於：志摩観光ホテル】 セッション4(政治・外交): ワーキング・ディナー 【於：志摩観光ホテル】	総理夫妻主催カクテル 【於：志摩観光ホテル】 総理夫人主催夕食会 【於：志摩観光ホテル】		愛知・名古屋歓迎レセプション(石垣副知事が出席) 【於：名古屋観光ホテル】
5/27 (金)	午前	セッション5(気候変動、エネルギー) 【於：志摩観光ホテル】 総理によるアウトリーチ首脳出迎え 【於：志摩観光ホテル】 アウトリーチ・セッション1(アジアの安定と繁栄) 【於：志摩観光ホテル】 G7及びアウトリーチ首脳記念撮影 【於：志摩観光ホテル】	国際メディアセンター視察	安倍総理とインドネシア大統領との懇談	≪世界との絆づくり≫ ベトナム閣僚による松阪市訪問(石垣副知事が参加) 【於：松阪もめん手織りセンター、旧長谷川邸等】 ≪配偶者プログラム≫ 国際メディアセンター視察(鈴木知事が案内及び参加)
	昼	アウトリーチ・セッション2(開発、アフリカ):ワーキング・ランチ 【於：志摩観光ホテル】	総理夫人主催昼食会 【於：志摩観光ホテル】		
	午後	議長国会見 【於：賢島宝生苑】		日米両首脳による広島訪問	≪世界との絆づくり≫ OECD事務総長による伊勢神宮訪問(石垣副知事が案内) IMF専務理事によるミキモト真珠島訪問 ベトナム首相による伊勢神宮訪問(鈴木知事が案内)
5/28 (土)	午前			日・チャド首脳会談 日・バングラデシュ首脳会談 日・スリランカ首脳会談 日・パプアニューギニア首脳会談	
	昼			日・ラオス首脳会談及び総理主催昼食会	
	午後			日・ベトナム首脳会談	

※アウトリーチには、チャド、インドネシア、スリランカ、バングラデシュ、パプアニューギニア、ベトナム、ラオス、国際連合 (UN)、国際通貨基金 (IMF)、世界銀行 (WB)、経済協力開発機構 (OECD)、アジア開発銀行 (ADB) が参加。

2 参加国・参加者

【G7】

国名	首脳
日本	安倍晋三内閣総理大臣(議長)
アメリカ合衆国	バラック・オバマ大統領
英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)	デービッド・キャメロン首相
フランス共和国	フランソワ・オランド大統領
ドイツ連邦共和国	アンゲラ・メルケル首相
イタリア共和国	マッテオ・レンツィ首相
カナダ	ジャスティン・トルドー首相
欧州連合	ドナルド・トゥスク欧州理事会議長
欧州連合	ジャン＝クロード・ユンカー欧州委員会委員長

【アウトリーチ】

国名/機関名	首脳
バングラデシュ人民共和国	シェイク・ハシナ首相
チャド共和国	イドリス・デビー・イトゥノ大統領
インドネシア共和国	ジョコ・ウィドド大統領
ラオス人民民主共和国	トンレン・シースリット首相
パプアニューギニア独立国	ピーター・オニール首相
スリランカ民主社会主義共和国	マイトリーパーラ・シリセーナ大統領
ベトナム社会主義共和国	グエン・スアン・フック首相
国際連合 (UN)	潘基文事務総長
国際通貨基金 (IMF)	クリスティーヌ・ラガルド専務理事
世界銀行 (WB)	ジム・ヨン・キム総裁
経済協力開発機構 (OECD)	アンヘル・グリア事務総長
アジア開発銀行 (ADB)	中尾武彦総裁

3 関連施設

(1) 首脳会議場

首脳会議は、「志摩観光ホテル ザ クラシック」(以下「クラシック」)及び「志摩観光ホテル ザ ベイスイート」(以下「ベイスイート」)で開催された。両ホテルは、首脳会議(G7ワーキングセッション、アウトリーチ会合)以外にも、配偶者プログラム、社交行事等公式行事の会場となったほか、G7首脳及び代表団の宿舎として利用された。



志摩観光ホテル ザクラシック



志摩観光ホテル ザベイスイート*1

【クラシックの概要】

昭和26年4月開業。伊勢志摩国立公園内にある賢島に戦後初となる本格的なリゾートホテルとして誕生。6階建ての建物に、114室を擁し、開業当初より昭和天皇をはじめとする数多くの賓客を迎え入れてきた。

【ベイスイートの概要】

平成20年10月開業。クラシックから南西約200mに位置する。地上5階建ての建物に50室の客室を擁し、全室スイートルームかつ客室面積が100㎡以上と国内リゾートホテルでは最大級の広さを誇る。

(2) 国際メディアセンター（IMC）

報道関係者の作業スペースを備えるサミット取材のための総合施設として、「国際メディアセンター」（以下「IMC」）を既設施設の「三重県営サンアリーナ」（以下「サンアリーナ」）及び隣接する仮設施設の「アネックス」に設置した。

平成28年5月25日（水）8時から28日（土）正午までの4日間に、約5,000人（実人数）の内外報道機関関係者がIMCを利用した。



三重県営サンアリーナ



アネックス外観*2



三重県営サンアリーナ内部

【アネックスの整備概要】

建物の整備業務は外務省から支出委任を受けた国土交通省（中部地方整備局）が担当し、サンアリーナの隣接地に建設した。

- ・開設期間 平成28年5月25日（水）8時から28日（土）正午まで（期間中24時間運営）
- ・整備費 約28.5億円
- ・環境への配慮 建材、工法、使用機器等について3R（Reduce、Reuse、Recycle）等環境への配慮が行われた。
- ・解体 平成28年7月20日（水）から解体工事を開始。使用された資機材は9割以上が再利用される。

【主な施設・サービス】

サンアリーナ内には、報道関係者の取材支援として、放送設備（マスターコントロールルーム、テレビ・ラジオ放送局用ブース、編集室等）を有する「国際放送センター（IBC）」に加えて、インターネット環境（有線・無線）、電話、プリンタ、FAXが配備された「共用ワーキングスペース」（約1,020席）、及び共用プレスブリーフィングルームが設置された。

また、IMC利用の利便性向上のために、IMCの総合案内やWi-Fi、プリンター利用のサポートを行う「インフォメーション&ITヘルプデスク」、シャトルバスの運行状況を確認できる「IMCシャトルバスインフォメーション」、外国語案内ボランティアを配置して地元の観光や交通について案内する「観光・交通案内デスク」、郵便局やATM、両替機、またカメラの修理窓口を有する「サービスブース」や「軽食コーナー」及び「売店」も設置された。

アネックス内には、日本の魅力を発信する「政府広報展示スペース」、三重の魅力を発信する「三重情報館」及び三重県産の食材を用いた料理の提供等が実施された報道関係者向けのダイニングスペースが設置された（詳細はP 332参照）。

なお、IMC（及びIMC内に設置した三重情報館）のオープンに際して、県民会議は完成式及び完成記念祝典を開催した（詳細はP 87参照）。

【政府広報展示スペースの概要】

「伝統」と「革新」及び国際社会が直面する様々な課題の解決に資する日本の技術をテーマに、サミットの課題と連動するカテゴリーごとに関連する日本の技術・製品約80点がパネル、模型、映像、体験といった形式で展示された。



政府広報展示スペース



スポーツ展示コーナー

また、屋外展示スペースにおいて、次世代自動車、パーソナルモビリティや自動ブレーキ・自動駐車システムの試乗体験が行われたり、IMC内では、2020年東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019、また日本政府が推進するスポーツを通じた国際貢献策である「スポーツ・フォー・トゥモロー」に関する展示も実施された。

【IMCのセキュリティ対策】

サミット期間中IMC周辺は規制区域となったことから、IMCの利用は伊勢志摩サミット取材者証の所有者に限定された。また、入館にあたっては、入口前に設置された保安検査場にて、手荷物検査及び金属探知機によるセキュリティチェックが実施された。

(3) サブメディアセンター1 (SMC1)

賢島で行われる公式行事や二国間会談等を取材する代表取材記者の待機スペース及び議長国記者会見場として、「サブメディアセンター1」(以下「SMC1」)が「賢島宝生苑」に設置された。

(4) サブメディアセンター2 (SMC2)

各国首脳の記者会見場として、「サブメディアセンター2」(以下「SMC2」)が「伊勢志摩ロイヤルホテル」に設置された。

(5) 政府代表団宿舎

クラシック及びベイスイートに宿泊できる人数は限られているため、G7各国代表団の宿舎として、志摩市内のホテルが利用された。また、アウトリーチ会合に出席したG7以外の首脳等は、主に名古屋市内のホテルに宿泊した。

(6) 日本政府現地事務所

日本政府の現地作業の拠点として、賢島宝生苑が使用された。

(7) 三重県現地事務所

三重県志摩庁舎に、現地における情報収集、関係機関との連絡調整及び緊急時の対応を行う事務所を設置した。また、報道対応のための情報整理、取りまとめを実施する事務所を三重県伊勢庁舎へ、三重情報館の運営等県民会議の事業を行う事務所をIMC内に設置した。

(8) 空港

各国の政府専用機の離発着には、中部国際空港が利用された。中部国際空港には、各国首脳の到着及び出発を支援するため、仮施設として、貴賓室及び合同事務棟が国土交通省により設置された。

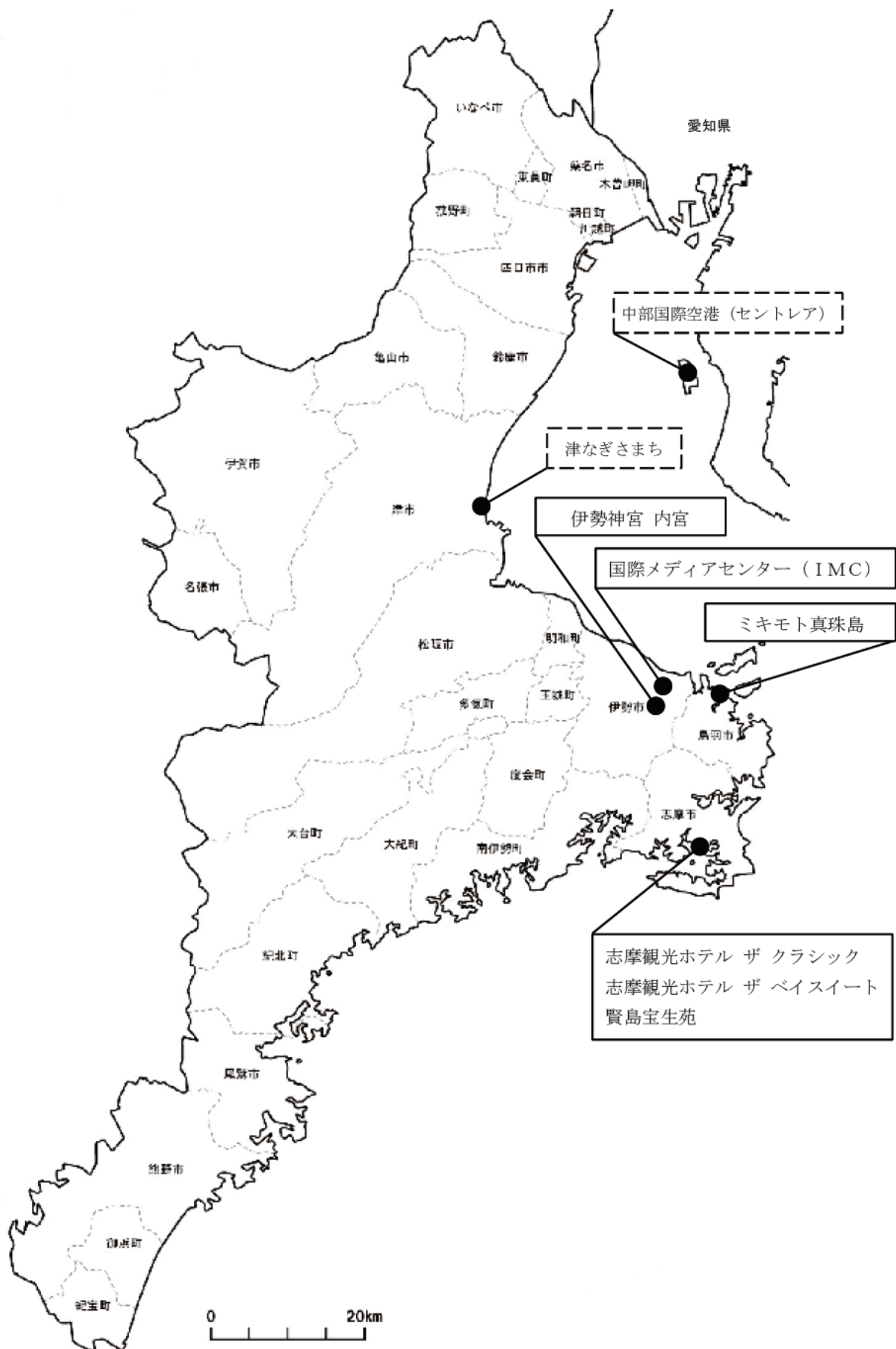
(9) 志摩ヘリポート

中部国際空港と賢島間の首脳の移動は、荒天等でヘリコプターが飛行できない場合を除き、ヘリコプターによる空路の輸送が実施され、賢島近辺の離発着地として、「志摩スペイン村」の駐車場が臨時のヘリポートとして利用された。

〔関連施設の写真：※1は(株)近鉄・都ホテルズ提供

※2は国土交通省提供、その他は外務省提供〕

主な関連施設の位置図



4 首脳会議等の概要及び成果

(1) 首脳会議等の概要

5月24日（火）の概要

【日加首脳会談】

安倍総理はトルドー首相と総理官邸にて会談し、伊勢志摩サミットへ向けた連携の確認及び「日加協力新時代」を切り拓き、多分野で二国間が協力関係を強化することで一致した。

会談終了後、共同記者会見も行われた。



日加首脳会談

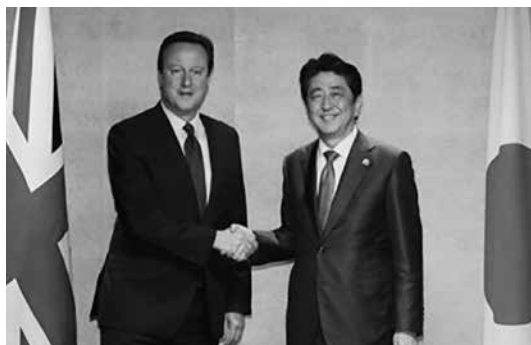


日加共同記者会見

5月25日（水）の概要

【日英首脳会談】

安倍総理はキャメロン首相と志摩観光ホテルで会談し、日EU経済連携協定（EPA）、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）等のメガFTAの推進が世界経済の成長にとって重要であること、日EU・EPAの早期実現に向けて緊密に協力していくことを確認した。また、両首脳は、政治・安全保障、貿易・投資、原子力を含む経済等、幅広い分野で日英二国間関係を強化していくこと及びサミットの最大のテーマである世界経済や腐敗対策等について先だって意見交換を実施した。



英国のキャメロン首相と安倍総理



日英首脳会談

【日米首脳会談】

安倍総理はオバマ大統領と志摩観光ホテルで会談し、冒頭の少人数会合の全ての時間を割いて、平成28年4月に沖縄で発生した米軍属のアメリカ人による日本人女性の殺害事件について議論した。本件について、安倍総理からオバマ大統領へ強い抗議を表明するとともに、実効的な再発防止策の徹底および厳正な処分を求め、オバマ大統領からは、心からの哀悼と深い遺憾の意が表明されるとともに、日本の捜査及び正義の実現のために全面的に協力する旨の発言があった。両者は、日米でよく協議して実効的な再発防止策を追求すること、また、日米で協力して失われた信頼を回復し、沖縄の負担軽減に全力を尽くしていくことで一致した。

全体会合においては、世界経済、TPP、北朝鮮、東アジア情勢、気候変動について議論し、G7サミットに向けて、日米が緊密に連携していくことで一致した。

会談終了後、共同記者会見も行われた。



日米共同記者会見

5月26日（木）の概要

【伊勢神宮訪問、記念植樹】

伊勢神宮内宮の宇治橋にて、安倍総理自らG7首脳を出迎えた。神宮附属幼稚園の園児46名もサミット参加国の国旗を手に、G7首脳の到着を歓迎した。



神宮附属幼稚園の園児と一緒に
G7首脳を出迎える安倍総理



イタリアのレンツィ首相を出迎える安倍総理

内宮敷地内では、鈴木知事も参加して記念植樹を行った後、安倍総理の案内でG7首脳は正宮を訪れ、正宮前で記念撮影が行われた。



宇治橋を渡る米国のオバマ大統領と安倍総理



内宮神苑前で記念植樹



正宮へ向かうG7首脳



正宮前で記念撮影

【G7首脳会議】

1日目の首脳会議では、「G7の価値・結束」、「世界経済」、「貿易」、「政治・外交」について議論された。また、ワーキング・ランチ、ワーキング・ディナーにおいては、三重県産の食材、酒類がふんだんに活用された（G7首脳に提供された県産食材、酒類についてはP 317参照）。



セッション1：ワーキング・ランチ



セッション4：ワーキング・ディナー

【自動走行車・燃料電池自動車のプレゼンテーション】

志摩観光ホテル敷地内にて、自動走行車・燃料電池自動車のプレゼンテーション及びこれらの自動車の試乗が行われた。安倍総理から参加した首脳に対し、自動走行車の実用により、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、世界で最も安全な道路交通社会を実現すること及び燃料電池自動車の普及により、世界をリードして、環境・エネルギー問題の解決に取り組むことが伝えられた。



プレゼンテーションする安倍総理



英虞湾を背景に記念撮影

【G7首脳記念撮影】

志摩観光ホテル ザ ベイスイートの屋上庭園にて、英虞湾を背景にG7首脳の記念撮影が行われた。

【日EU経済連携協定（EPA）に関する共同ステートメントの発出】

日本、EU、フランス、ドイツ、イタリア、英国首脳により、日EU経済連携協定（EPA）に関する共同ステートメントが発出され、日EU・EPAの早期の合意を目指すこと、同席の関係首脳と引き続き緊密に連携していくことが確認された。

【総理夫妻主催カクテル】

ワーキング・ディナー前に行われた総理夫妻主催カクテルにおいて、三重県産の日本酒等が提供・紹介され、日本や三重県の食文化のPRを行う上で、非常に有意義な機会となった。



日EU経済連携協定（EPA）に関する
共同ステートメントの発出

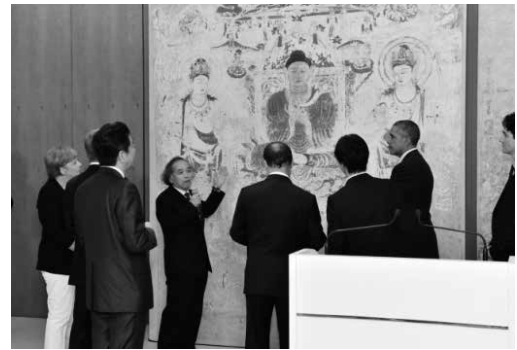


カナダのトルドー首相夫妻と安倍総理夫妻

【テロと文化財】

タリバーンによって破壊されたバーミヤン東大仏天井壁画及び焼失した法隆寺金堂壁画第6号壁を「クローン文化財」*として復元したものが展示される中、東京藝術大学宮廻（みやさこ）教授により壁画に関する説明がなされ、日本の高度な遺跡修復技術がアピールされた。

※クローン文化財…高精度かつ同素材同質感の文化財複製。



首脳に壁画について説明する宮廻教授

5月27日（金）の概要

【G7首脳会議】

2日目の首脳会議は、「気候変動・エネルギー」を議題として議論が行われた。

【アウトリーチ会合】

8年ぶりにアジアで開催されるサミットであることを踏まえ、アジアから、ラオス、ベトナム、インドネシア、バングラデシュ、スリランカ、パプアニューギニアの首脳、また、サミットの成果をTICAD（アフリカ開発会議）につなげるべく、アフリカ連合の議長国であるチャドの首脳、さらに、国際機関から、国連、経済協力開発機構（OECD）、アジア開発銀行（ADB）、国際通貨基金（IMF）、世界銀行の首脳が招かれ、G7首脳とともに「アジアの安定と繁栄」、「開発・アフリカ」を議題としてアウトリーチ会合が開かれた。



セッション5の様子



アウトリーチ会合の様子

【安倍総理とインドネシア大統領との懇談】

ワーキング・ランチの前に安倍総理とジョコ大統領との懇談が行われ、アジアの発展や南シナ海問題について意見交換するとともに、今後も質の高いインフラ整備を通じ、電力や運輸分野で引き続き協力していくことで一致した。

【G7首脳及びアウトリーチ首脳記念撮影】

志摩観光ホテル敷地内において、G7首脳及びアウトリーチ首脳の記念撮影が行われた。



インドネシアのジョコ大統領と安倍総理



G7首脳及びアウトリーチ首脳記念撮影

【議長国会見】

安倍総理による議長国会見が賢島宝生苑にて行われ、「G7伊勢志摩首脳宣言」に基づく声明が発表された。また、国会見の最後には、サミット開催に協力した地元の伊勢志摩の住民及び三重県民に対して感謝の意が表明された。

（「G7伊勢志摩首脳宣言」はP 369参照）



議長国会見

5月28日（土）の概要

【アウトリーチ各国との首脳会談】

安倍総理は、アウトリーチ招待国であるチャド、バングラデシュ、スリランカ、パプアニューギニア、ラオス、ベトナムの首脳と会談を行い、会談を通じて各国と多分野で協力関係を強化していくことが確認された。



日・チャド首脳会談



日・バングラデシュ首脳会談



日・スリランカ首脳会談



日・パプアニューギニア首脳会談



日・ラオス首脳会談



日・ベトナム首脳会談

(2) 首脳会議等の成果

【G7首脳会議の成果】

「G7の価値・結束」「世界経済」「貿易」「政治・外交」「気候変動・エネルギー」について2日間で行われた議論を踏まえ、「G7伊勢志摩首脳宣言」が発出された。

特に、最大のテーマである「世界経済」については、G7首脳同士で世界経済が大きなりスクに直面しているという強い危機意識が共有され、世界経済、貿易、インフラ、保健、女性、サイバー、腐敗といった具体的な分野におけるG7の行動が「G7伊勢志摩経済イニシアティブ」に取りまとめられたことで、G7が世界経済を牽引していくという明確な姿勢が発信された。

また、併せて、以下の附属文書も発出された。

- ①質の高いインフラ投資の推進のためのG7伊勢志摩原則
- ②国際保健のためのG7伊勢志摩ビジョン
- ③女性の能力開花のためのG7行動指針
- ④サイバーに関するG7の原則と行動
- ⑤腐敗と戦うためのG7の行動
- ⑥テロ及び暴力的過激主義対策に関するG7行動計画

【アウトリーチ会合の成果】

伊勢志摩サミットは、8年ぶりにアジアで開催されたG7サミットであることから、「アジアの安定と繁栄」をテーマに、「質の高いインフラ投資」及び「開かれ、安定した海洋」について議論された。さらに、「持

「持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs）」採択後初めてのG7サミットでもあることから、「保健」や「女性の活躍」に焦点を当てつつ、SDGsの推進及びアフリカの開発について議論が行われた。

【次回サミット】

レンツィ伊首相より、2017年のサミットをイタリア（シチリア島）で開催する旨発表された。

〔首脳会議等の概要及び成果の写真：外務省提供〕

第3章 配偶者プログラム

配偶者プログラムでは、G7首脳とともに来日した配偶者に三重を通じて日本を感じていただくべく、「伊勢志摩にみる日本の伝統・文化」をテーマに、伊勢志摩地域各地の訪問や、県民との様々な交流が行われた。

【参加配偶者】

国名	氏名
日本	安倍昭恵 総理夫人
ドイツ連邦共和国	ヨアヒム・ザウアー 首相夫君
カナダ	ソフィー・グレゴワール＝トルドー 首相夫人
欧州連合	マウゴジャータ・トゥスク 欧州理事会議長夫人

【プログラム日程】

月日	時間	プログラム	場所
5月26日(木)	11:15-13:00	伊勢神宮訪問	伊勢神宮内宮
	13:15-14:15	総理夫人主催昼食会 [※]	杉風荘(さんぷうそう)
	14:35-16:20	ミキモト真珠島訪問 [※]	ミキモト真珠島
	17:10-17:20	記念植樹(県民会議主催) [※]	志摩観光ホテル
	19:50-21:30	総理夫人主催夕食会	志摩観光ホテル
5月27日(金)	11:00-11:09	政府広報展示スペース視察	国際メディアセンター
	11:10-11:20	三重情報館視察 [※]	
	11:25-11:45	パラスポーツ視察	
	11:55-12:15	竹あかり制作ワークショップ	
	12:55-14:00	総理夫人主催昼食会	志摩観光ホテル

※伊勢志摩サミット三重県民会議がコンテンツ提供及び実施サポートを行ったプログラム。

【伊勢神宮訪問】

宇治橋前で神宮附属幼稚園の園児による出迎えを受けた後、正宮を訪問した。



園児の出迎え



伊勢神宮宇治橋

【総理夫人主催昼食会】

伊勢市内の杉風荘（さんふうそう）において、県立相可高等学校食物調理科の生徒が県産食材をふんだんに用いて料理し、全て英語でおもてなしをした。同校は国際的な料理コンクールで数々の受賞歴があり、調理クラブが実践教育の場として運営するレストラン「まごの店」で日々研鑽に努めている。

昼食会は鈴木知事と相可高等学校生による挨拶の後、主催者である安倍総理夫人の乾杯の発声で始まった。料理やサービスは、時折、拍手喝采を浴びるなど、配偶者の方々に非常に好評であった。

また、尾鷲ヒノキのテーブルやイス、伊賀焼や四日市萬古焼の食器、伊勢形紙で染めたナプキンなど、多くの三重県産品が食卓を彩った。



杉風荘の月見台にて



鈴木知事及び生徒代表挨拶



料理の写真（八寸）



記念撮影

日 時	5月26日(木) 13:15-14:15	
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・日本、ドイツ、カナダ首相及び欧州理事会議長の配偶者 ・相可高等学校生徒9名(調理場、サービス、お茶・お菓子をそれぞれ担当) ・相可高等学校校長、食物調理科教諭2名 ・鈴木知事(冒頭挨拶) 	
メニュー	<p>【八寸】</p> <p>志摩産鮑酒蒸し 三色団子・学校ミニトマト・厚焼き卵・牛乳団子 花茗荷甘酢漬け 初かつお煮凍り 三重県産米「結びの神」の海老手まり寿司</p> <p>【煮物椀】</p> <p>伊勢海老真丈</p> <p>【だし巻き卵】</p> <p>県内の農業高校 飼い卵のだし巻き卵・あおさ</p> <p>【すき焼き】</p> <p>特選松阪肉・すべて三重県産の椎茸・本しめじ 小松菜・玉葱・牛蒡・人参・白葱・焼豆腐・温泉卵</p> <p>【御飯】</p> <p>安倍昭恵様丹精こめて作った特別栽培米「昭恵米」 県内の農業高校自家製味噌の味噌汁・あおさ 松阪赤菜の漬物</p> <p>【お菓子】</p> <p>花菖蒲じょうよ饅頭・干菓子・伊勢茶・珈琲・紅茶</p>	<p>伊勢湾産穴子ごぼう銚込み 志摩捕れ烏賊酒盗焼き あのりふぐ一夜干し 熊野地鶏松風焼き 三重県産五月鱒 燻製の笹寿司</p> <p>胡麻豆腐・つるな・結び人参・柚子</p>

【ミキモト真珠島訪問】

知事、地元首長、海女及び女将団体等による出迎えの後、ミキモト真珠島所属の海女による採取デモンストラーションの見学、真珠博物館の見学及び真珠採取体験が行われた。



鈴木知事挨拶



海女との交流



伊勢音頭実演



鳥羽九鬼水軍太鼓保存会による太鼓演奏*

真珠採取体験は、県水産研究所が養殖したアコヤ貝を用い、ミキモト真珠島社員及び県水産研究所職員の指導により行われた。取り出した真珠は、記念品として配偶者に贈られた。

その後の休憩時に、県内の障がい者が作った、シフォンケーキ（はあぶ工房together）と伊賀の飛猿サブレ（維雅幸育会ふっくりあモンマール）を提供した。

休憩後は屋外に移動し、海女との交流、鳥羽九鬼水軍太鼓保存会による太鼓演奏、伊勢音頭実演が行われた。

海女との交流では、鳥羽市及び志摩市の海女一人一人と握手をしながら言葉を交わした後、海女代表者と海女の仕事の大変さや自然との共生等についての対話が行われた。

また、伊勢音頭実演では、伊勢音頭保存会と伊勢市の小中学生「伊勢っ子」がそれぞれ踊りを披露した後、配偶者も加わり一緒に輪になって、参加者全員が伊勢音頭を踊った。

日 時	5月26日(木) 14:35-16:20
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・日本、ドイツ、カナダ首相及び欧州理事会議長の配偶者 ・海女85名、伊勢音頭保存会18名、伊勢っ子23名、鳥羽九鬼水軍太鼓保存会8名、真珠採取指導者5名、鳥羽市女将団体9名及び外国語案内ボランティア5名 ・地元市町（鳥羽市、志摩市、伊勢市、南伊勢町）の各首長 ・鈴木知事

【記念植樹】

伊勢志摩サミット三重県民会議の主催により、志摩観光ホテル内の庭園において、記念植樹を行った。

植栽樹には、様々な課題に連携して対峙していかなければならないサミットにおいて、友好を象徴する樹としてふさわしく、また古くから日本人に愛されてきた樹種である桜（ヤマザクラ）を選定した。



鈴木知事による案内



志摩市立神明小学校代表挨拶



記念植樹



記念撮影

記念植樹では、主催者代表として鈴木知事による歓迎の挨拶の後、地元の志摩市立神明小学校の代表による挨拶、続いて、参加配偶者、大口志摩市長及び鈴木知事が、神明小学校児童のサポートにより記念植樹を行った。

なお、植樹された3本のヤマザクラは、それぞれ横山展望台、登茂山展望台及び志摩観光ホテルに移植され、今後、地域の財産として大切に育てていくこととなった。

日時	5月26日(木) 17:10-17:20
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・日本、ドイツ首相及び欧州理事会議長の配偶者 ・志摩市立神明小学校児童(9名) ・大口志摩市長 ・鈴木知事

【総理夫人主催夕食会】

夕食会では、過去に全日本学生音楽コンクールで1位になった、津市在住の中学生である巽千夏さんがバイオリン演奏を披露した。

【国際メディアセンター政府広報展示スペース視察】

国際メディアセンターアネックス入口にて鈴木知事夫妻等による出迎えの後、視察が行われ、四輪駆動の電動車椅子に試乗するなどした。



総理夫人主催夕食会



電動車椅子試乗

【三重情報館視察】

鈴木知事夫妻の案内により、国際メディアセンター内の三重情報館において、映像も交えた海女の説明、伊賀くみひもの実演視察、伊勢茶の手もみ実演視察と氷出しのお茶の提供、フリクションペンの説明、仮想試着の体験、観光情報等をスマートフォンやタブレット等で持ち帰ることができる装置「PONTANA(ポインタナ)」の体験が行われた。

訪問日時	5月27日(金) 11:10-11:20
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・日本、カナダ首相及び欧州理事会議長の配偶者 ・三重県組紐協同組合1名、三重県手もみ茶技術伝承保存会2名 ・三重情報館コンテンツ選定委員 生駒芳子氏 ・鈴木知事、知事夫人



鈴木知事による挨拶



伊賀くみひもの実演視察

【パラスポーツ視察】

ボッチャ、車椅子バスケットボールを視察し、その後、伊勢市等の子どもたちとともに、ブラインドサッカー体験を行った。

【竹あかり制作ワークショップ】

熊本を拠点に活動する竹あかり演出グループ「ちかけん」の企画により、鈴木知事夫妻等も参加し、三重県産の竹を使用して伊勢形紙のデザインを用いた竹あかりの制作を行った。



ブラインドサッカー体験



竹あかり制作

〔配偶者プログラムの写真：外務省提供（※を除く）〕

サミット裏話・こぼれ話 ～総理夫人主催の昼食会・英語でのおもてなし～

配偶者プログラムのうち、26日の昼食は安倍昭恵総理夫人主催により、相可高等学校の生徒の皆さんが心をこめたおもてなしを行いました。

生徒たちは、実は歓迎の挨拶やメニュー紹介、給仕の言葉のやり取りを全て英語で行っています。料理に比べると、英語は彼らにとって得意ではなかったかもしれませんが、自分たちで言葉を考え、何度も練習を重ねることで、配偶者の方々にはしっかり思いを伝えることができました。

伊勢志摩サミットをきっかけに、三重県を訪れる外国人の方も多くなることでしょう。外国語でのコミュニケーションは勇気のいることかもしれませんが、おもてなしの心があれば、きっと相手に伝わると思います。

第2編 サミット開催に向けて

第1章 誘致

1 経緯

サミットは、毎年各国の持ち回りで開催され、平成28年には日本での開催が予定されていた。外務省から、首脳会議及び関係閣僚会合の開催地が公募される中、三重県においては、平成26年8月20日（水）に、関係閣僚会合の開催地として誘致を表明した。ただし、首脳会議については、地元負担も含めて財政スキームが明らかになった段階での誘致を留保したものであった。

三重県以外では、仙台市、新潟市、浜松市、長野県軽井沢町、名古屋市、神戸市、広島市が首脳会議の誘致を、また、北海道・札幌市、茨城県・つくば市、静岡県・静岡市、京都市、香川県、大分県、熊本県、宮崎県が関係閣僚会合の誘致をしていると報道されていた。

2 誘致決定

平成26年8月20日（水）に関係閣僚会合の誘致を表明して以降、円安の進行などにより訪日外国人観光客が増加の勢いを増している中、国内外に情報発信する絶好の機会であると判断したこと、地方創生が最重要課題とされ、「まち・ひと・しごと」の創生に向けた交付金の創設等、地方一般財源の充実が見込まれること、県内市町から首脳会議を誘致して資源をPRしたいとの意向や、経済界や県民の皆さんから首脳会議の誘致をしてほしいとの声を多く受けたことから、平成27年1月21日（水）に首脳会議の誘致を表明した。

3 三重県の提案内容

サミットの誘致にあたっては、「『日本人の心のふるさと』『里海』のある『聖地 伊勢志摩』から『共生』『成長』のメッセージを世界に発信」することをテーマに、次の点をアピールした。

(1) 多様な世界観の共存による世界平和を発信

- ・日本人は、伊勢参宮を通じて人々が支え合って生きていくことを学んできた。テロ行為には断固とした措置は当然としつつ、今こそ、他者を受け入れ共に生きるという、世界平和の実現のメッセージを伊勢志摩の地から発信

(2) 環境と産業の両立、自然と成長の調和を発信

- ・伊勢神宮から広がる森・山・海と独自の生活様式が融合した景観を1300年以上継承しており、平成28年は、伊勢志摩国立公園指定70周年
- ・三重県は公害に立ち向かってきた経験を持ち、高度な環境技術を世界に移転する拠点（ICETT）の設立地
- ・世界需要の4割を供給する「NAND型フラッシュメモリ」や「MRJ」の生産拠点を有し、EVや水素エネルギーの先進的取組も推進する「技術のショールーム」であり、「2025年までの都道府県別成長率予測」No.1（民間発表）

(3) リトリート方式を実践・海洋リゾートの一体感とリラックスできる雰囲気の中で

- ・会場として想定する志摩観光ホテルクラシックは、戦後初の純洋式リゾートホテルで、小説「華麗なる一族」の舞台となった日本を代表するホテル
- ・首脳宿泊地として想定するベイスイートは、全室が100㎡以上の日本屈指の快適さを誇るスイートルームで、部屋から見える英虞湾に沈む夕日は絶景
- ・近年の高原リゾートでの開催と差別化した「おもてなし」になり、日本の観光地のプレゼンス向上

(4) 日本を代表する豊富な歴史・伝統文化

- ・日本の原風景とも言える田園が広がる「伊勢平野」、400年以上にわたって守られてきた「丸山千枚田」は地域の人々の知恵と努力の結晶
- ・世界でも有数の景観を有する伊勢志摩地域のリアス式海岸、かつて朝廷に海の幸を献上してきた「御食国（みけつくに）」として、今でも豊富な海産資源を提供
- ・世界遺産「熊野古道」は伊勢と熊野を結ぶ祈りの道、シーボルトが持ち帰り西欧デザインに影響を与えた「伊勢形紙」
- ・日本人の世界観・価値観を探求した「本居宣長」、俳聖「松尾芭蕉」、日米友好の礎を築いた「尾崎行雄」、真珠養殖を世界で初めて成功させた「御木本幸吉」、「伊賀流忍者」を生み出した地

4 2016年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会

平成26年10月30日（木）に平成28年開催予定の主要国首脳会議（サミット）関係閣僚会合の誘致について、オール三重県で誘致活動を展開していくため官民一体の組織として「2016年みえ伊勢志摩サミット関係閣僚会合誘致推進協議会」を設立し、設立総会を開催した。

その後、首脳会議の誘致表明に伴い、名称を「2016年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会」に改め、要望活動を展開した。



2016年みえ伊勢志摩サミット関係閣僚会合誘致推進協議会設立総会

5 国による事前調査

三重県の提案を受け、平成27年1月までに、外務省及び警察庁が三重県を訪れ、提案内容に基づく関係施設等の現地視察が行われた。

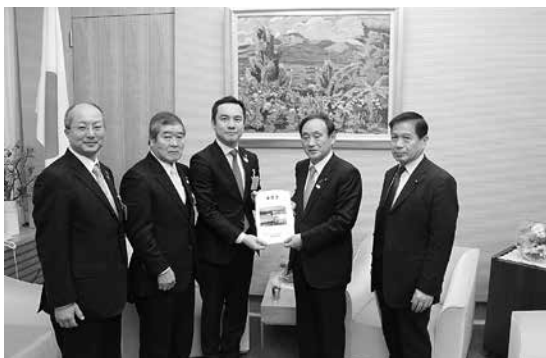


国による事前調査

6 知事等による要望活動

平成27年3月10日（火）、2016年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会の会長である三重県知事、構成団体である志摩市商工会会長、志摩市観光協会会長等が上京し、本県の誘致のポイントを菅内閣官房長官、岸田外務大臣、加藤内閣官房副長官、世耕内閣官房副長官に説明し、要望書を手渡した。

知事からは、三重県のアピールポイントとして、伊勢志摩地域には他者や多様な価値観を受け入れる精神性があり、平和を発信できるメッセージ性があることや、環境と産業の両立や自然と成長の調和が取れている地域であることなど、安倍総理がホストとして開催するサミットにふさわしい地域であることを力強くアピールした。



菅内閣官房長官への要望書



岸田外務大臣への要望書

7 議会の決議

三重県議会においては、全議員が「2016年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会」顧問に就任したほか、平成27年第1回定例会での議論を経て、3月17日（火）に「2016年主要国首脳会議の三重県開催を求める決議案」が提出され、全会一致で可決された。

このほか、伊勢市議会、桑名市議会、南伊勢町議会、菟野町議会、亀山市議会、志摩市議会、鳥羽市議会、四日市市議会、玉城町議会においても同趣旨の決議がなされた。

8 開催決定

安倍総理がエルマウ・サミットに出発する平成27年6月5日（金）の夕方、安倍総理から鈴木知事に直接電話が入り、三重県での開催決定が伝えられた。安倍総理は、空港で記者団に対し、「伊勢志摩サミット」の開催決定を発表した。

この後、鈴木知事は臨時記者会見を開き、今後の取組への決意とこれまでの謝意を述べた。

なお、名称については、後日、文書で「みえ伊勢志摩サミット」にしてほしいと県から外務省に要望したが、かなわなかった。



開催決定の発表を受けての知事会見

9 開催日の決定

平成27年6月23日（火）、菅内閣官房長官が記者会見において、伊勢志摩サミットの開催日を、平成28年5月26日（木）、27日（金）と発表した。サミット開催まで、すでに1年を切る状況であった。

10 海外開催地視察

(1) ドーヴィル

平成27年3月26日（木）、27日（金）、三重県としての取組の参考とするために、2011年にサミットが開催されたフランスのドーヴィルを事務レベルで訪れ、当地の自治体やコンベンションセンターの担当者と意見交換を行うなど、様々な情報収集を行った。



首脳が宿泊したホテル・ノルマンディ・バリエール



首脳会議場となったドーヴィル国際会議場

(2) エルマウ・サミット視察

サミット開催時の現地の様子を把握するため、事務レベルでドイツのエルマウを訪問した。

三重県での開催が決まった翌日の6月6日（土）から6月10日（水）にかけて、エルマウ・サミットの現地視察を行った。

公使や総領事等から助言を受けるとともに、ミュンヘン、ガルミッシュ・パルテンキルフェン、エルマウ、ミッテンヴァルトを視察し、市内の状況や規制の状況などを確認した。



首脳会議場となったエルマウ城



メディアセンター

(3) ロック・アーン

サミットの開催地決定以前から計画されていた三重県知事の欧州訪問の機会を活用し、平成27年7月5日（日）に2013年のロック・アーン・サミットの開催地となった北アイルランドを訪問した。

サミット開催時に首脳が宿泊し会議場ともなったロック・アーンリゾート（ホテル）を中心に周辺施設等も合わせて視察し、当時の担当者等からサミット開催時の状況などを聞くことができた。ホテルは湖に囲まれた風光明媚な立地にあるなど、伊勢志摩と共通する点もあり、地元食材の活用、開催地を含む広域での観光振興など現地を訪問しなければ分からない有益な情報を得ることができた。



ロック・アーンリゾートで説明を受ける鈴木知事

11 国内開催地視察

(1) 北海道視察

サミット開催決定を受けて、県としての取組の参考とするため、鈴木知事が平成27年7月26日（日）、27日（月）に、日本での前回のサミット開催地である北海道を訪問し、高橋はるみ知事、サミット時に洞爺湖町長であった真屋敏春氏、北海道経済連合会副会長の山本邦彦氏及び常務理事の浜田剛一氏と面談し、サミットを経験された方々から、現場での生の声など、有益な情報を伺った。また、外務省の現地事務所であった北海道洞爺湖サミット記念館、首脳会議場として使用されたザ・ウィンザーホテル洞爺、国際メディアセンターであったルスツリゾートを視察した。



高橋知事との面談

(2) 沖縄県視察

サミット開催決定を受けて、県としての取組の参考とするため、前々回日本でサミットが開催された沖縄県を平成27年9月10日（木）から11日（金）に、事務レベルで訪問・視察し、情報収集を行った。

九州・沖縄サミット時に首脳会議場として使用された万国津梁館、開催時の森総理をはじめとした日本の関係者の宿泊場所であったブセナテラスなどで、サミット開催時の業務に従事された方と面談し、準備の進め方等について貴重なアドバイスを受けた。



首脳会議場として使用された万国津梁館

第2章 体制

1 県庁内の推進体制

(1) 伊勢志摩サミット推進局

平成27年6月5日（金）に、三重県でのサミット開催が決定したことを受け、6月8日（月）付けて、「みえ伊勢志摩サミット推進局」を雇用経済部内に設置し、局長（部長級）をはじめとした16名の職員を配置した。

6月24日（水）には人事異動により、県職員12名を加増するとともに、警察2名、市町4名の職員を受け入れ、7月15日（水）には民間企業から9名が派遣された。

業務の増加にあわせて順次増員し、サミット開催時には兼務発令された県職員及び現地業務の動員も含め、総勢100名の体制で業務を遂行した。なお、8月1日（土）に内閣官房へ1名、9月1日（火）と10月1日（木）に外務省へ1名ずつ計2名の職員を派遣し、国との連携強化や調整に当たった。

当初、みえ伊勢志摩サミット推進局は、県庁8階の雇用経済部内と7階の旧サーバー室で執務していたが、その後大幅な人員増が見込まれたことから、7月15日（水）からは、庁外の民間ビルの一部を借り上げ執務室として使用するとともに、推進局の名称も「伊勢志摩サミット推進局」と改称した。

【職員数の推移（平成28年10月時点）】

年度	月日	県			企業	市町	国	計
		専任	兼務	動員				
H27	6月8日	16						16
	6月24日	30				4		34
	7月15日	30			9	4		43
	8月1日	34			14	5		53
	8月20日	34			14	5	1	54
	8月21日	34			16	5	1	56
	9月1日	35			16	5	2	58
	10月1日	35			19	5	2	61
	11月1日	37			19	5	4	65
	12月1日	37			20	5	4	66
	12月24日	37		1	20	5	4	67
	1月19日	37		2	20	5	4	68
	2月1日	37		2	20	7	4	70
H28	4月1日	38		2	20	7	4	71
	4月15日	38		12	20	7	4	81
	5月1日	38		12	20	5	4	79
	5月9日	38		21	20	5	4	88
	5月21日～28日	38		21	12 (50)	20	5	100
	6月1日	38		1	20	5	4	68
	6月6日	36		1	20	5	2	64
	6月11日	36			20	5	2	63
	7月1日	21						21
10月1日	16						16	

(2) サミット期間中の体制

サミット期間中においては、危機管理や報道対応のための情報収集等様々な業務を円滑に実施するために現地事務所を設置するとともに、首脳による記念植樹や配偶者プログラム等の開催支援のため現地に職員を配置した。

また、期間中の情報伝達については、既存の三重県伊勢志摩サミット推進本部（詳細は次ページ）の枠組みを活用するとともに、志摩現地事務所へ情報を集約し、各部局等のリエゾン（連絡要員）を活用した連絡調整を図り、サミットの円滑な開催に向けて支援を行った。

また、外務省現地危機対策室へ職員を派遣し、サミットの進捗状況等現地での情報収集に努めた。

①各部局からの職員の応援

開催に向けた準備と期間中の対応のため、業務の進捗にあわせ、平成28年4月15日（金）と5月9日（月）の2回に分け、5月31日（火）までを兼務期間として19名が増員された。

また、5月21日（土）から28日（土）までの8日間には、外務省が担当する業務への応援者50名と、インフォメーションセンターに配置される外国語案内ボランティアの運営支援等の業務に対応するため、12名の動員を行った（業務内容等により、応援及び動員の期間は5月21日（土）から28日（土）の間で最短2日間から、最長6日間まで様々であった）。

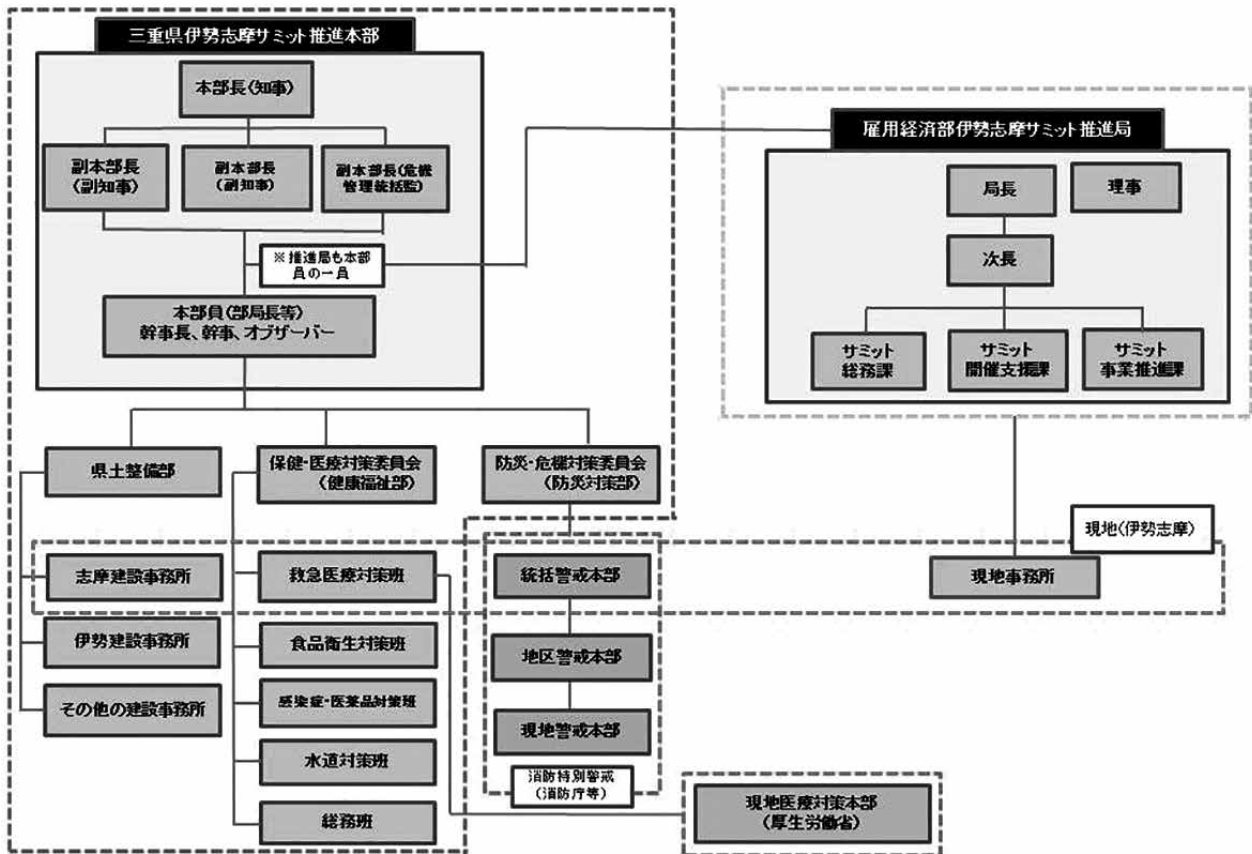
②現地事務所の設置

サミット期間中の危機管理や円滑な業務運営のため、志摩市と伊勢市に現地事務所を設置するとともに、国際メディアセンターにも伊勢志摩サミット推進局職員及び各部局からの応援職員を配置し、取組を推進した。

現地事務所の設営にあたっては、県地域庁舎の会議室を使用したため、県庁のネットワーク環境を利用することができたほか、コピー、ファクスは協賛品を活用することができ、短期間の使用ではあるものの、費用を抑えながら従来の執務室と同程度の環境を作ることができた。

地域	設置場所	業務内容
志摩	県志摩庁舎会議室	危機管理、各種情報収集、情報共有
伊勢	県伊勢庁舎会議室	報道対応資料作成
	国際メディアセンター	三重情報館の運営、インフォメーションカウンター運営、おもてなしバッグ配布

伊勢志摩サミット開催時の体制



(3) 三重県伊勢志摩サミット推進本部

県庁内ではみえ伊勢志摩サミット推進局（平成27年7月15日に「伊勢志摩サミット推進局」に改称）を設置したが、サミット開催に向けた準備にあたっては、企業庁・病院事業庁・教育委員会事務局・県警察本部を含む、全庁横断的な推進体制の構築が不可欠であったことから、平成27年6月26日（金）、知事を本部長、副知事と危機管理統括監を副本部長とする「みえ伊勢志摩サミット推進本部（7月15日に「三重県伊勢志摩サミット推進本部」に改称）を設置した。推進本部の所掌事項は、①サミットの円滑な実施を図るための総合調整に関する事、②その他サミットの推進に必要な事項に関する事とした。

<三重県伊勢志摩サミット推進本部の構成員>

防災対策部長、戦略企画部長、総務部長、健康福祉部長、健康福祉部医療対策局長、健康福祉部子ども・家庭局長、環境生活部長、環境生活部廃棄物対策局長、地域連携部長、地域連携部スポーツ推進局長、地域連携部南部地域活性化局長、農林水産部長、雇用経済部長、雇用経済部観光局長、雇用経済部伊勢志摩サミット推進局長、雇用経済部伊勢志摩サミット推進局理事、県土整備部長、会計管理者兼出納局長、企業庁長、病院事業庁長、教育長、警察本部長、東京事務所長、関西事務所長

推進本部には、各部局総務課長等で構成する幹事会を設置した。幹事会は、推進本部に提案する事項、各部局等の所掌事項について相互に調整する事項を所掌することになり、サミットの準備に関する事務的な調整を行った。さらに、平成27年7月14日（火）には、防災対策部が「防災・危機対策委員会」、健康福祉部が「保健・医療対策委員会」をそれぞれ設置した。



平成27年度第1回推進本部会議

【開催状況（平成28年9月時点）】

平成27年6月26日（金）平成27年度第1回推進本部会議

- ・推進本部の設置について
- ・サミット開催地の視察報告について

7月9日（木）平成27年度第1回幹事会

- ・各部局における諸課題の検討状況
- ・現状報告（情報共有）

7月14日（火）平成27年度第2回推進本部会議

- ・委員会の設置について
- ・現状報告（情報共有）

8月3日（月）平成27年度第2回幹事会

8月7日（金）平成27年度第3回推進本部会議

- ・2008年北海道洞爺湖サミット視察結果について
- ・サミット開催に向けた取組について ほか

8月20日（木）平成27年度第3回幹事会

- ・県民会議事業の概要について
- ・9月補正予算におけるサミット関連予算の状況について
- ・各部局の取組状況等について ほか

9月4日（金）平成27年度第4回幹事会

9月9日（水）平成27年度第4回推進本部会議

- ・各取組の報告について ほか

9月17日（木）平成27年度第5回幹事会

9月25日（金）平成27年度第5回推進本部会議

- ・県産食材等の利用促進に向けた取組について
- ・東海三県一市知事市長会議の報告について ほか

10月15日（木）平成27年度第6回幹事会

10月22日（木）平成27年度第6回推進本部会議

- ・伊勢志摩サミット三重県民会議シンボルマークの決定について
- ・伊勢志摩サミットに係る外務省飯倉公館におけるセミナー及びレセプションの開催について
- ・200日前ウィークに向けた取組について ほか

11月10日（火）平成27年度第7回幹事会

11月13日（金）平成27年度第7回推進本部会議

- ・各委員会、各部局からの報告 ・住民懇話会の開催について
- ・国際理解・国際交流プログラム等について
- ・東京での駐日外交団、プレス等に対する情報発信について
- ・県民会議主催のプレスツアーについて
- ・ジュニア・サミットの三重県開催の決定について ほか

11月19日（木）平成27年度第8回幹事会

- ・サミット関連予算の全体像について ほか

12月16日（水）平成27年度第9回幹事会

12月24日（木）平成27年度第8回推進本部会議

- ・ジュニア・サミット体験・交流プラン等の提案について
- ・「伊勢志摩サミット三重県民会議」会員の追加について
- ・クラウドファンディングの活用開始について
- ・県民会議 収支予算（平成27・28年度）の考え方について
- ・伊勢志摩サミット宿泊予約センターについて ・弁当供給体制の整備について
- ・伊勢志摩サミット開催150日前イベントについて ほか

平成28年1月6日（水）平成27年度第10回幹事会

- ・伊勢志摩サミット開催に向けた県民会議事務局におけるテロ対策について ほか

1月21日（木）平成27年度第11回幹事会

1月27日（水）平成27年度第9回推進本部会議

- ・開催100日前ウィークイベントについて
- ・三重県情報館（仮称）コンテンツ選定委員会の開催結果について
- ・宿泊施設の状況について ・住民懇話会の開催について
- ・伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体の連携について ほか

2月3日（水）平成27年度第12回幹事会

- ・開催100日前ウィークイベントについて ・海外への情報発信について
- ・伊勢志摩サミット東海三県一市との連携について
- ・伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体の連携について ほか

2月10日（水）平成27年度第13回幹事会

2月17日（水）平成27年度第10回推進本部会議

- ・各国首脳等と県民との交流について ・各国先遣隊夕食会について
- ・海外への情報発信について ・伊勢志摩サミットに係る経済効果の試算について

・「おもてなし大作戦」キックオフイベントの開催結果について ほか

3月7日（月）平成27年度第14回幹事会

3月16日（水）平成27年度第11回推進本部会議

- ・ジュニア・サミットについて ・開催50日前ウィークイベントについて
- ・三重県情報館（仮称）について
- ・伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体代表者での総理大臣官邸訪問について
- ・伊勢志摩サミットにおける交通総量抑制対策について ほか

3月24日（木）平成27年度第15回幹事会

- ・小型無人機（通称ドローン）の飛行規制について
- ・伊勢志摩サミットにおける交通総量抑制対策について
- ・三重のおもてなしバックについて ・ジュニア・サミットについて
- ・国際メディアセンター（IMC）アネックス（三重県情報館（仮称）を含む）のサミット終了後の公開についてほか

4月8日（金）平成28年度第1回幹事会

4月14日（木）平成28年度第1回推進本部会議

- ・伊勢志摩サミットにおける三重県の交通総量抑制対策に係る取組について
- ・小型無人機（通称ドローン）の飛行規制について ・住民懇話会の開催について
- ・G7広島外相会合視察の概要について ほか

4月22日（金）平成28年度第2回幹事会

- ・伊勢志摩サミット開催直前の全庁応援について

5月12日（木）平成28年度第3回幹事会

5月17日（火）平成28年度第2回推進本部会議

- ・公式行事等について ・国際メディアセンターについて
- ・ジュニア・サミットの開催結果について ・国際理解・国際交流について
- ・サミット開催に伴う住民への影響について
- ・サミット終了時の県民等へのメッセージ発信について ほか

5月31日（火）平成28年度第4回幹事会

6月2日（木）平成28年度第3回推進本部会議

- ・伊勢志摩サミット開催報告（速報）について ・各委員会からの報告
- ・伊勢志摩サミット終了後の取組について

8月1日（月）平成28年度第5回幹事会

8月4日（木）平成28年度第4回推進本部会議

- ・伊勢志摩サミットに係る「職員向け説明会」の開催について ほか

9月5日（月）平成28年度第6回幹事会

- ・伊勢志摩サミットについて（経済効果 ほか）

9月20日（火）平成28年度第7回幹事会

9月27日（火）平成28年度第5回推進本部会議

- ・「2016大学生国際会議in三重」について

- ・伊勢志摩サミット三重県民宣言（仮称）について ほか

2 伊勢志摩サミット三重県民会議

（1） 設立の経緯

平成28年に三重県で開催されるサミットの成功をめざし、官民一体となった三重県全体の受け入れ体制を確立するとともに、併せて関連する事業に取り組むため、平成27年6月26日（金）、県内の産業・経済、観光、教育、文化、国際交流等の114団体（開催時140団体）が官民による「伊勢志摩サミット三重県民会議」を設立した。



県民会議設立総会

（2） 組織体制

①総会・役員会・部会

県民会議の行う事業は、①サミット開催に対する支援、協力及び受入れに向けた準備の推進に関する事、②サミット関連事業の企画及び実施に関する事、③サミット開催に関する広報・啓発及び三重県の情報発信に関する事とし、その基本方針や決算等を決議する「総会」、事業計画や予算、県民会議の運営に関する事等を決議する「役員会」を設置した。

【県民会議の役員】

会 長	三重県知事
副 会 長	志摩市長 三重県議会議長 三重県商工会議所連合会会長 公益社団法人 三重県観光連盟会長
理 事	三重県商工会連合会会長 三重県中小企業団体中央会会長 三重県農業協同組合中央会会長 三重県漁業協同組合連合会代表理事会長 三重県木材協同組合連合会理事長 公益社団法人 伊勢志摩観光コンベンション機構会長 三重県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長 一般社団法人 全国旅行業協会 三重県支部長 近鉄グループホールディングス株式会社取締役社長 三重交通グループホールディングス株式会社代表取締役社長 公益財団法人 三重県国際交流財団理事長 三重県ボランティア連絡協議会会長 三重県市長会会長 三重県町村会会長 伊勢市長 鳥羽市長 南伊勢町長
監 事	三重県商工会連合会事務局長 三重県会計管理者兼出納局長

また、必要に応じ県民会議に「部会」を設置することができるものとし、平成27年7月27日（月）、県民会議の運営全般に関することや収支計画に関することを扱う「企画運営部会」、事業の企画・立案に関することを扱う「事業推進部会」を設置した。

企画運営部会は、三重県商工会議所連合会専務理事を部会長とし、産業・経済関係、宿泊・観光関係、交通・運輸関係、教育関係、環境・市民・文化・国際交流関係等の21団体で構成し、事業推進部会は、公益社団法人三重県観光連盟専務理事を部会長とし、同じく26団体で構成した。

これら総会等の会議は、県民会議の設立以降、サミット閉幕時点までに、総会3回、役員会4回、部会延べ14回を開催し、関連事業の企画・実施等の推進にあたった。

また、三重県の情報発信拠点として設置する三重情報館について、三重県の魅力を効果的に国内外に発信するためのコンテンツを選定するため、事業推進部会には、「コンテンツ選定委員会」を設置し、三重情報館における展示品の募集・選定及びその基準の策定に関する検討を進めた。



第3回役員会

【県民会議各種会議の開催状況（平成28年9月時点）】

- 平成27年6月26日（金） 設立総会、第1回総会、第1回役員会
- 7月27日（月） 第1回企画運営部会・事業推進部会
- 8月19日（水） 第2回企画運営部会・事業推進部会
- 9月14日（月） 第3回企画運営部会・事業推進部会
- 9月16日（水） 第2回役員会
- 10月13日（火） 第2回総会
- 11月20日（金） 第4回企画運営部会・事業推進部会
- 12月15日（火） 第5回企画運営部会・事業推進部会
- 12月18日（金） 第3回役員会
- 平成28年2月2日（火） 第6回企画運営部会・事業推進部会
- 2月17日（水） 第4回役員会
- 3月29日（火） 第3回総会
- 5月12日（木） 第7回企画運営部会・事業推進部会
- 6月20日（月） 第8回企画運営部会・結果報告会
- 8月30日（火） 第9回企画運営部会

②事務局

県民会議の事務局は、三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局内に置かれ、事務総長のもと、副事務総長、事務局長、3課で構成された。

事務局には、民間企業・国・市町からも職員が派遣され、官民一体での運営を行った。

【県民会議事務局への職員派遣を行った企業・団体一覧】 ※五十音順で記載

イオンリテール株式会社	1名	株式会社NTTドコモ	1名
近鉄グループホールディングス株式会社	3名	J Aグループ三重	2名
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1名	株式会社第三銀行	1名
中部電力株式会社	1名	株式会社電通	1名
西日本電信電話株式会社	1名	日本通運株式会社	1名
株式会社博報堂	1名	株式会社百五銀行	2名
マックスバリュ中部株式会社	1名	株式会社三重銀行	1名
三重交通グループホールディングス株式会社	2名		計15社20名

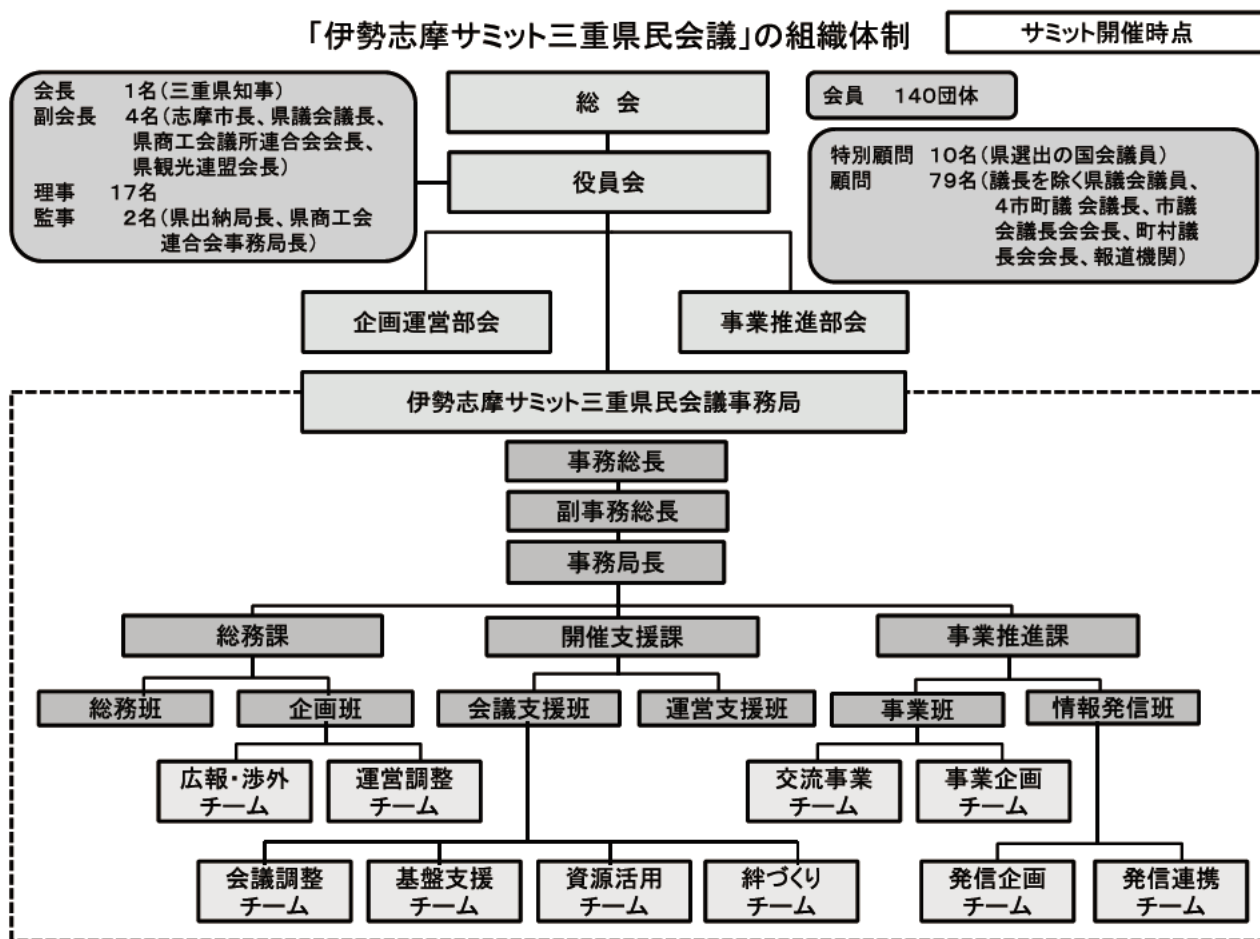
【国】

環境省1名 経済産業省1名 外務省1名 財務省東海財務局1名 計4名

【市町】

伊勢市1名 鳥羽市1名 志摩市2名 南伊勢町1名 桑名市2名 計7名

③組織体制図



3 伊勢志摩サミット国関係機関連絡会議

三重県内を管轄する国関係機関と三重県が緊密に連携し、情報共有することで、伊勢志摩サミット開催に向けた準備を進めるため、伊勢志摩サミット国関係機関連絡会議を設置した。

【第1回会議】

①実施日時・場所

平成27年7月29日(水) 14時から15時まで
三重県教育文化会館本館3階「第5会議室」

②出席機関

32機関58名

③議題

- ア 伊勢志摩サミットについて
(外務省大臣官房伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局総括次長)
- イ 伊勢志摩サミットに係るこれまでの経過と今後の取組について
(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局サミット開催支援課長)

- ウ 県及び市町の推進体制並びに県民会議事業実施基本方針について
(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局サミット開催支援課長)
- エ 伊勢志摩サミット県民会議事業計画(素案)及び宿泊予約センターについて
(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局サミット開催支援課長)
- オ 質疑応答

④その他

以下の各機関から、伊勢志摩サミットに向けた取組について発表があった。

東海財務局 名古屋税関 中部運輸局 津地方気象台
第四管区海上保安本部 中部地方環境事務所



会議の様子

【第2回会議】

①実施日時・場所

平成27年11月16日(月)14時40分から15時40分まで
三重県勤労者福祉会館6階「講堂」

②出席機関

36機関45名

※第1回会議は、伊勢志摩サミット業務に従事する事務担当者レベルの会議としたが、第2回会議は、
国関係機関連絡会議参加機関の長を対象としたため、鈴木三重県知事も出席した。

③議題

- ア 伊勢志摩サミットについて
(外務省大臣官房伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局長)
- イ 伊勢志摩サミットに係るこれまでの経過と今後の取組について
(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局長)
- ウ 伊勢志摩サミットに係る国関係機関の取組について
東海総合通信局 中部公安調査局 東海財務局 中部経済産業局
中部運輸局 中部地方整備局 第四管区海上保安本部

【第3回会議】

①実施日時・場所

平成28年3月14日(月)14時30分から16時まで

三重県勤労者福祉会館6階「講堂」

②出席機関

34機関52名

③議題

- ア 伊勢志摩サミット開催に係る外務省の準備状況について
(外務省大臣官房伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局総務班長)
- イ 伊勢志摩サミットに係るこれまでの経過と今後の取組について
(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局サミット開催支援課長)
- ウ 伊勢志摩サミットに係る国関係機関の取組について
東海総合通信局 名古屋入国管理局 名古屋税関 中部地方整備局
第四管区海上保安本部



会議の様子

4 伊勢志摩サミット市町連絡調整会議

サミット開催に向けて、県内市町と連携し、万全の体制で準備を進めていくことを目的として「伊勢志摩サミット市町連絡調整会議」を開催した。

【構成市町】

県内全29市町

【開催状況】

第1回 平成27年7月14日(火)

〔議題〕

- 伊勢志摩サミットの推進体制について
- 県内市町の推進体制について
- 伊勢志摩サミット開催に係る現在の状況について
- ジュニアサミットについて
- 今後のスケジュールについて ほか

第2回 平成27年8月26日（水）

〔報告〕

県民会議事業の概要について

〔議題〕

県民会議事業に関する連携について

市町の主体事業における検討状況について

その他

ブロック別意見交換会 平成27年10月20日（火）、21日（水）、23日（金）

Aブロック【伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町】

Bブロック【津市、松阪市、多気町、明和町、大台町】

Cブロック【尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町】

Dブロック【名張市、伊賀市】

Eブロック【四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町】

〔議題〕

200日前イベントについて

花いっぱいおもてなし運動について

クリーンアップ運動について ほか

第3回 平成27年11月26日（木）

〔議題〕

「伊勢志摩サミット三重県民会議」への県内各市町の参画について

インフォメーション機能の整備について

クリーンアップ活動（環境美化・清掃活動）について

花いっぱいおもてなし運動について

ジュニアサミットの三重県開催決定について

三重県情報館（仮称）について

〔報告〕

伊勢志摩サミット三重県民会議事業の概要について

サミットに関連する会議等の設置に係る各市町の状況について ほか

第4回 平成28年2月2日（火）

〔議題〕

100日前ウィークイベント等について

おもてなし大作戦について

第1回三重県情報館（仮称）コンテンツ選定委員会の開催結果について

〔報告〕

伊勢志摩サミット三重県民会議事業の概要について ほか

5 伊勢志摩サミット地域連絡調整会議

サミット開催に向けて、三重県と関係市町（伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町）とが緊密に連携し、万全の態勢で準備を進めていくことを目的として、6回開催した。

6 国への応援体制（外務省業務への応援）

サミット期間中（5月23日（月）又は24日（火）から27日（金）まで）には、外務省の現地業務への支援のため、50人の職員を派遣した。

【志摩 21名】

- ・各国代表団の車両等への誘導
- ・チェックポイントでの案内、誘導
- ・主会場（志摩観光ホテル）への業者誘導 ほか

【伊勢（国際メディアセンター） 29名】

- ・プレス用シャトルバス案内、誘導
- ・広報スペースにおける案内、連絡
- ・NGOワーキングスペースにおける連絡調整、案内 ほか

